

光陰矢のごとしと言つように、月日の過ぎるのは早く、私が渡道して75年になります。顧みますと、両親に従って岐阜県から移住したのが明治39年で小学校1年生の時でした。今は大変便利になりましたが、当時は1週間以上かかったと思います。

汽車で青森に着き、連絡線は沖に泊まっていた、小舟でこぎ着け、はしごを伝って乗船し、一夜かかって室蘭に上陸したと思います。

当時は汽車は北見にはなく、本線は名寄までで、翌日からは海岸道を各駅通に泊まりながら徒歩で着いたのが4日目の夕方と思います。

*注：明治39年3月、岐阜県から移住した國枝鶴松さんの子息／一雄さんは、父親から聞いた話として「郷土ところ54号」に次のように書いています。

「函館から汽車で名寄まで来て、それから子どもは歩かせ、荷物は背負い、興部を通ってオホーツク海の海岸に出て歩いたのだそうです。途中、先に入地していた親族の方々が馬そりで迎えに来てくれました。雪の北海道に初めて来て、こんな嬉しかったことはなかったと話してくれました。」

当時の常呂市街は、川向こうと本通り、大通りで、戸数も100戸くらいだと思います。現在の新町も役場の他は10戸くらいだと思います。小学校も今の場所より南方で土佐にありましたと思います。

*注：「新町」は、「常呂町史」掲載の町内地図では、役場庁舎から西へ池知建設・中台内科、天龍寺を挟んで南西側は常呂小学校前、南側は常楽寺を挟んで小学校前の道路と道々との交差点付近という狭い地区でした。

*注：小学校の場所に関して

明治28年に現在の本通りに常呂教育所が設立

明治33年に常呂尋常小学校に改称（修業年限4年）

大正5年 常呂村市街予定地（現在地）に位置変更の指定、校舎建設（240坪）

大正6年6月 校舎移転

移住して4、5年過ぎた頃のことを考えてみますと、常呂市街よりも鑑沸の方が賑やかで、学校もあり、お祭りには神社で角力や草競馬を見たことを記憶しております。

*注：鑑沸神社 大正15年、現在地に建立、八幡大神を奉納

*注：鑑沸尋常小学校

大正2年2月5日 鑑沸教育所開設

大正4年4月 鑑沸教育所が鑑沸尋常小学校に改称

* 鑑沸の賑わい 「常呂村史」から抜粋・一部読みやすく編集

「大正15年、外海においてホタテが大漁のため、各地より漁船が入港し、戸数がいちやく5倍の8戸に増加し、料理店3戸、飲食店6戸の開業をみた。以来、昭和2年まで本部落未曾有の繁栄時代を現出」

* 鑑沸の賑わいについては、國枝宇吉さんの記憶に時代のズレがありそうです

当時は何も見世物がなかったせいで、小学生の頃は遠足に各学校を見て廻ったことを覚えていますが。川治校は今の会館（注：旧豊川公民館）の近くで小川があったように思います。また、太茶苗校にも行ったことがあります。毎年の水害のため、後に廃校となり、現在の福山に変わったと聞きました。

* 注：「遠足」に関するものも古い記録は

大正3年10月3日 常呂小学校・常呂第二小学校（注：川治小）・岐阜小学校の
連合遠足会開催（常呂町百年史）

* 注：大正15年3月1日 太茶苗尋常小学校と幌内教授場を併合して太幌尋常小学校が
成立

常呂で当時一番賑やかに思ったことは、競馬会でした。毎年、8月20日開催で、村中総出で見物しました。今の町民センターの場所付近が元の競馬場あたりだと思います。

* 「競馬」の始まりは、明治35年（常呂村史）。一時中断を経て、明治41年には土佐に半マイルの競馬場を新設して再開（土佐郷土史）。

「8月20日開催」の記述は、資料では確認できません。「明治43年8月24日 常呂外4ヶ村連合大競馬会開催（北海タイムス）」がもっとも近い開催日です。開催日は別として、大正時代・昭和15年頃まで盛んに競馬会が行われていたことはいろいろな資料に記載されています。

また、「明治43年頃、上山所有地（第一地区）で草競馬が開かれ、その後も現岐阜集落センター付近で行われた」（岐阜百年記念史）との記録もあります。記憶の正確さは関係なく競馬が盛んだったことは確かです。